

山岳ガイド 自然ガイド 職能別資格検定試験詳細規定

社団法人日本山岳ガイド協会
検定審査委員会

(自然ガイド分野)

里山ガイド

職能範囲

国内において四季を通じて森林や野山、河川を含む地域など人間社会と隣接する里地・里山地域での自然や民俗を解説するガイド行為を行うことができる。

受験資格

- ・満20歳以上で健康で体力があり、本会の経験・技術基準、知識水準を満たす者。
- ・通算110日以上以上の登山経験を有し、内10日以上以上の積雪期の登山経験を有する者。

受験申請書類（筆記試験申請時提出書類）

受験申請書 + 顔写真3枚（各科目毎の受験申込書とは別に必要）

住民票

登山歴報告書、ガイド歴のある場合にはその報告書

健康診断書（受験申込前3ヶ月以内に受診したもの）

検定試験受験誓約書

免除規定が適用できる場合に必要な証明

筆記試験料（一次試験）の内訳

- ・書類審査料（5,000円）・筆記試験料（15,000円）
（一次試験合格者が二次試験の実技検定試験を受験できる）

筆記試験科目

試験科目	試験内容
共通科目 基礎的知識	スポーツ科学 地球物理、気象、動植物、地理、地質、地形に関する知識 農山村の経済と歴史、民俗 里地・里山の環境 登山技術論 自然環境保全知識
共通科目 ガイド業務関連知識	ガイド業務関連法（自然公園法、道路運送法、旅行業法、旅館業法、鳥獣保護法、森林・林業法、環境基本法、自然保護法など） ガイド倫理およびマナー

専門科目 里山ガイド専門知識	里山の植生環境学、森林生態学、動物生態学、 里地、里山の自然知識 観天望気 読図 森林・林業に関する事項 循環型社会に関する事項 自然観察に関する事項 農山漁村の生活と産業に関する事項 積雪期の知識 エコツーリズム
安全管理	医薬に関する知識 レスキューに関する知識 安全管理知識および危急時対応技術
小論文	自然ガイドとしての意思、信念を問います。同時に、1箇所のガイド解説箇所を任意で特定し、そこでのガイド方法をレポートします。論文字数制限1600字

筆記試験の実施は他のガイド種別と同時に進行。

実技検定試験（二次試験）

各実技科目毎の提出書類

受験申込書

最初の申請時提出書類から変更のあった内容についての再提出部分

山岳遭難保険申込書または加入済証券の写し

実技検定試験科目および検定試験料

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
無積雪期登山道ルートガイディング 自然観察指導技術、安全管理技術	日本国内	2日	¥25,000	免除規定 (注1)
積雪期(山地・高原・里山) ルートガイディング 自然観察指導技術、安全管理技術	日本国内	2日	¥30,000	免除規定 (注2)
延べ日数計		4日		

(注1) 認定養成指導者による同等の検定を経て免除することが出来る。この場合、10,000円の審査料となる。

(注2) 認定養成指導者による同等の検定を経て免除することが出来る。この場合、10,000円の審査料となる。

実技検定試験内容

検定科目	検定内容
無積雪期登山道ルートガイディング 自然観察指導技術、安全管理技術	無積雪期でのルートガイディング技術と歩行技術 ロープ操作、下降技術および固定ロープの方法 自然観察と解説および安全管理
積雪期(山地・高原・里山) ルートガイディング 自然観察指導技術、安全管理技術	積雪期でのルートガイディング技術と歩行技術 雪上での用具の使い方、指導能力 キックステップ技術およびステップカッティング技術 氷上歩行とアイゼン等器具の使用技術 自然観察と解説および安全管理
筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を実施する場合がある。

各科目の有効年数

各科目毎の合格有効年数は、合格証または免除認定書発行日から3年目の当該日までとする。

ガイド資格認定

全科目に合格した者へは、ガイド資格認定書を発行する。認定書受給者でガイド業務を行う者は、本会正会員団体に入会し、正会員団体より手続を行う。正会員団体より所定の入会金および年会費が納付された後、本会よりさらにガイド資格(本会正会員証)およびガイドバッジを付与する。すでに正会員である場合には、年度中では資格間の会費(入会金および年会費)差額のみ徴収し、新資格のガイド資格証を付与する。

資格更新について

資格更新は3年間に2日間以上の資格更新研修を受講し、更新申請する。満65歳を越える者は3年に2日間の机上研修を受講し更新申請する。

(更新のながれ) 資格更新研修申請書+研修費納入 更新研修 更新研修修了書

実技検定には受験者10名以内に対して1名の検定員を派遣する。

登山・山地ガイド

職能範囲

国内において無積雪期によく整備された登山道(注)遊歩道、および四季を通じた里山、高原、低山、森林、原野、河川を含む地域でのガイド行為を行うことができる。

(注)一般のガイドブック等で難路、険路、不整備、岩場技術、冰雪技術が必要とされるところは含まない。本会の定める登攀ガイディング・グレード表の山岳ガイドの範疇を参照。

受験資格

- ・満20歳以上で健康で体力があり、本会の経験・技術基準、知識水準を満たす者。
- ・通算120日以上以上の登山経験を有し、内20日間は積雪期である者。

受験申請書類(筆記試験申請時提出書類)

- 受験申請書+顔写真3枚(各科目毎の受験申込書とは別に必要)
- 住民票
- 登山歴報告書、ガイド歴がある場合にはその報告書
- 健康診断書(受験申込前3ヶ月以内に受診したもの)
- 検定試験受験誓約書
- 免除規定が適用できる場合に必要な証明

筆記試験料(一次試験)の内訳

- ・書類審査料(5,000円)・筆記試験料(15,000円)
- (一次試験合格者が二次試験の実技検定試験を受験できる)

筆記試験科目

試験科目	試験内容
共通科目 基礎的知識	スポーツ科学の知識 地球物理、気象、動植物、地理、地質、地形に関する知識 農山村の経済と歴史、民俗の知識 山地、里地、里山の環境の知識 登山技術の知識 自然環境保全知識
共通科目 ガイド業務関連知識	ガイド業務関連法（自然公園法、道路運送法、旅行業法、旅館業法、鳥獣保護法、森林・林業法、環境基本法、自然保護法など） ガイド倫理およびマナー
専門科目 登山・山地ガイド専門知識	山地の植生環境、森林生態学、動物生態学、 山地、山岳の自然知識 観天望気 読図 森林・林業に関する事項 循環型社会に関する事項 自然観察に関する事項 農山漁村の生活と産業に関する事項 積雪期の知識 エコツーリズム
安全管理	医薬に関する知識 レスキューに関する知識 安全管理知識および危急時対応技術 落石、崩落、増水、雪崩等の危険認知
小論文	山地ガイドとしての意思、信念を問います。同時に、1箇所のガイド解説箇所を任意で特定し、そこでのガイド方法をレポートします。論文字数制限1600字

筆記試験の実施は、他のガイド種別と同時に行う

実技検定試験（二次試験）

各実技科目毎の提出書類

受験申込書

最初の申請時提出書類から変更のあった内容についての再提出部分

山岳遭難保険加入申込書または加入済証券の写し

実技検定試験科目および検定試験料

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
無積雪期登山道ルートガイディング 自然観察指導技術、安全管理技術	日本国内	2日	¥25,000	免除規定 (注1)
レスキュー技術 基礎	日本国内	2日	¥25,000	
積雪期（山地、高原、里山） ルートガイディング 自然観察指導技術、安全管理技術	日本国内	2日	¥30,000	免除規定 (注2)
雪崩対策技術 基礎	日本国内	2日	¥30,000	
延べ日数計		8日		

(注1) 認定養成指導者による同等の検定を経て免除することが出来る。この場合、

10,000 円の審査料となる。
 (注 2) 認定養成指導者による同等の検定を経て免除することが出来る。この場合、
 10,000 円の審査料となる。

実技検定試験科目

検定科目	検定内容
無積雪期登山道ルートガイドディング 自然観察指導技術、安全管理技術	無積雪期でのルートガイドディング技術と歩行技術 ロープ操作、下降技術および固定ロープの方法 自然観察と解説および安全管理
レスキュー技術 基礎	搬送技術 引き上げ技術 (1:1、2:1、3:1) 降ろし技術 背負ってのカウンターラッセルによる降ろし技術 応急処置と露営技術
積雪期 (山地・高原・里山) ルートガイドディング 自然観察指導技術、安全管理技術	積雪期でのルートガイドディング技術と歩行技術 雪上での用具の使い方、指導能力 キックステップ技術およびステップカッティング技術 氷上歩行とアイゼン等器具の使用技術 自然観察と解説および安全管理
雪崩対策技術 基礎	雪崩予知技術 雪崩からのレスキュー技術と露営技術
筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を行う場合がある。

各科目の有効年数

各科目毎の合格有効年数は、合格証または免除認定書発行日から 3 年目の当該日までとする。

ガイド資格認定

全科目に合格した者へは、ガイド資格認定書を発行する。認定書受給者でガイド業務を行う者は、本会正会員団体に入会し、正会員団体より手続きを行う。正会員団体より所定の入会金および年会費が納付された後、本会よりさらにガイド資格証 (本会正会員証) およびガイドバッヂを付与する。すでに本会正会員である場合には、年度中では資格間の会費 (入会金および年会費) 差額のみ徴収し、新資格のガイド資格証を付与する。

資格更新について

資格更新は 3 年間に 2 日間以上の資格更新研修を受講し、更新申請する。満 65 歳を越える者は 3 年に 2 日間の机上研修を受講し更新申請する。

(更新のながれ) 資格更新研修申請書 + 研修費納入 更新研修 更新研修修了書

実技検定には受験者 10 名以内に対して 1 名の検定員を派遣する。但し、雪崩、レスキュー検定は別に定める。

認定養成指導者による同等の検定：

本会の認定する養成指導者は、本会の検定審査方法に従って、同等の実技検定試験を実施することができる。この場合、認定養成指導者は、受験申請日から起算して遡って 2 年以内の同等検定について、本会実技検定試験免除の推薦をすることが出来る。但し、この推薦の有効年数は、本会の合格証または免除認定書の発行日から 3 年目の当該日までとなる。(参考：本会のガイド養成指導者認定に関する規定)

(山 岳 ガ イ ド 分 野)

山岳ガイド

職能範囲

国内において困難な岩壁、氷壁ルートを除き、全ての地域（注）で季節を問わずガイド行為を行うことが出来る。

（注）本会の定める登攀ガイドング・グレード表の2級上ルート以下

受験資格

満20歳以上で健康で体力があり、本会の定める登山経験・技術基準を満たす者。

受験申請書類（筆記試験申請時提出書類）

受験申請書 + 顔写真3枚（各科目毎の受験申込書とは別に必要）

住民票

登山履歴報告書、ガイド歴がある場合にはその報告書

免除規定が適用できる場合に必要な証明

健康診断書（受験申込前3ヶ月以内に受診したもの）

検定試験受験誓約書

山岳遭難保険加入証書の写し

筆記試験および実技適性試験料（一次試験）の内訳

・書類審査料（5,000円）・筆記試験（15,000円）

・実技適性試験（15,000円=半日）

認定養成指導者の養成課程を修了した者については、一次試験の実技適性試験を免除する。

（一次試験合格者が二次試験の実技検定試験を受験できる）

実技検定試験（二次試験）

各科目毎の申請提出書類

受験申込書

最初の申請時提出書類から変更のあった内容についての再提出部分

検定試験科目および検定試験料

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
筆記試験（書類審査 + 筆記試験 + 適性試験）	日本国内	1日	¥35,000	（注1）
無積雪期 岩場・岩稜・沢でのルートガイドング	日本国内	4日	¥45,000	
無積雪期登山道ルートガイドング 自然観察指導技術、安全管理技術	日本国内	2日	¥25,000	免除規定（注2）
レスキュー技術 基礎	日本国内	2日	¥25,000	免除規定（注3）
積雪期ルートガイドング 氷雪技術、雪稜技術	日本国内	4日	¥45,000	
雪崩対策技術 基礎	日本国内	2日	¥30,000	免除規定（注4）
雪崩対策技術 中級	日本国内	4日	¥45,000	
山岳スキーガイドング 基礎	日本国内	3日	¥35,000	免除規定（注5） 選択科目
山岳スキーガイドング 中級	日本国内	4日	¥45,000	選択科目
延べ日数（選択科目を除く）		19日+		

- (注1) 筆記試験および実技適性試験の実施は他のガイド種別と同時に行う。
- (注2) 登山・山地ガイド資格者は免除。また、認定養成指導者の同等の検定を経て免除することができる。この場合、10,000円の審査料となる。
- (注3) 登山・山地ガイド資格者は免除。
- (注4) 登山・山地ガイド資格者は免除。
- (注5) 山岳スキーは選択科目。山岳スキーガイド基礎は認定養成指導者の同等の検定を経て免除することができる。この場合、10,000円の審査料となる。

検定試験内容

検定科目	検定内容
筆記試験（一次試験）	登山技術一般、及び自然環境知識 地理、地形、気象に関する知識 危急時対応技術および応急処置 安全管理技術 職業倫理とマナー
実技適性試験	懸垂下降とロープワークの一部および体力調査
無積雪期 岩場・岩稜・沢でのルートガイド	容易な岩壁、岩稜または沢でのルートガイド技術 (ルートグレード1~2級程度)
無積雪期登山道ルートガイド 自然観察指導技術、安全管理技術	無積雪期でのルートガイド技術と歩行技術 ロープ操作、下降技術および固定ロープの方法 自然観察と解説および安全管理
レスキュー技術 基礎	搬送技術 引き上げ技術(1:1 2:1 3:1) 降ろし技術 背負ってのカウンターラッセルによる降ろし技術 応急処置と露営技術
積雪期ルートガイド 氷雪技術指導能力 雪稜技術指導能力	積雪期でのルートガイド技術と歩行技術 傾斜45度を含む5mの氷壁をカティング等でリードする技術 キックステップ技術およびステップカッピング技術 雪庇尾根上でリードする技術 用具の使い方、指導能力
雪崩対策技術 基礎	雪崩予知技術 雪崩からのレスキュー技術と露営技術
雪崩対策技術 中級	雪崩予知技術 雪崩対策の器具使用技術 雪崩からのレスキュー技術
山岳スキーガイド 基礎 (選択科目)	山岳スキーガイド技術 山岳における登行・滑降技術
山岳スキーガイド 中級 (選択科目)	山岳スキーガイド技術 山岳スキーレスキュー技術
筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を行う場合がある

各科目の有効年数

各科目毎の合格有効年数は、合格証または免除認定書発行日から3年目の当該日までとする。

ガイド資格認定

全科目に合格した者へは、ガイド資格認定書を発行する。認定書受給者でガイド業務を行う者は、本会正会員団体に入会し、正会員団体より手続を行う。正会員団体より所定の入会金および年会費が納付された後、本会よりさらにガイド資格証（本会正会員証）およびガイドバッジを付与する。すでに本会正会員である場合には、年度中では資格間の会費（入会金および年会費）差額のみ徴収し、新資格のガイド資格証を付与する。

資格更新について

資格更新は3年間に3日間以上の資格更新研修を受講し、更新申請する。満60歳を越える者は3年に2日間の机上研修を受講し更新申請する。

(更新のながれ) 資格更新研修申請書+研修費納入 更新研修 更新研修修了書

実技検定では科目に応じて受験者6名以内に対して1名の検定員を配置する。但し、山岳スキー、雪崩、レスキュー検定および適性試験は別に定める。

上級登攀ガイド資格研修課程(登攀ガイド資格)

職能範囲

国内において極めて困難な岩壁、氷壁等の登攀ルートを除き、全ての地域(注1)で季節を問わずガイド活動を行うことが出来る。登攀ガイド資格は、上級登攀ガイド資格を得るための課程であるので、特に許可をされた者(注2)を除きこの暫定資格の取得後3年以内に上級登攀ガイド資格を取得しなければならない。

(注1) 本会の定めるガイドング・グレード表の4級上ルート以下。但し、上級登攀ガイド資格者の管理下においては、これを除外する。

(注2) 平成16年3月末日時点での登攀ガイド資格認定者、および病気、怪我等での休業期間を認定された者。

受験資格

満20歳以上で健康で体力があり、本会の定める登山経験・技術基準を満たす者。

受験申請書類(筆記試験申込時提出書類)

受験申請書+顔写真3枚(各科目毎の受験申込書とは別に必要)

住民票

登山歴報告書、ガイド歴がある場合にはその報告書

免除規定が適用できる場合に必要な証明

健康診断書(受験申請前3ヶ月以内に受診したもの)

検定試験受験誓約書

山岳遭難保険加入証書の写し

筆記試験および実技適性試験料(一次試験)の内訳

・書類審査料(5,000円)・筆記試験(15,000円)

・実技適性試験(15,000円 半日)

認定養成指導者の養成課程を修了した者については、一次試験の実技適性試験を免除する。

(一次試験合格者が二次試験の実技検定試験を受験できる)

実技検定試験(二次試験)

各実技科目毎の申請提出書類

受験申し込み書

最初の申請時提出書類から変更のあった内容についての再提出部分。

検定試験科目および検定試験料

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
筆記試験（書類審査+筆記試験+適性試験）	日本国内	1日	¥35,000	（注1）
無積雪期 登攀ルートガイドイングおよびクライミング能力と技術指導	日本国内 日本国内	5日	¥60,000	免除規定（注2）
積雪期 登攀ルートガイドイングおよびアイスクライミング能力と技術指導	日本国内 日本国内	5日	¥60,000	免除規定（注3）
山岳スキーガイドイング 基礎	日本国内	3日	¥35,000	免除規定（注4） 選択科目
山岳スキーガイドイング 中級	日本国内	4日	¥45,000	選択科目（注5）
雪崩対策技術 中級	日本国内	4日	¥45,000	免除規定（注6）
レスキュー技術 中級	日本国内	4日	¥45,000	
延べ日数（選択科目を除く）		19日+		

（注1）筆記試験および実技適性試験の実施は他のガイド種別と同時に進行。

（注2）認定養成指導者による同等の検定を経て免除することが出来る。この場合、15,000円の審査料となる。

（注3）認定養成指導者による同等の検定を経て免除することが出来る。この場合、15,000円の審査料となる。

（注4）認定養成指導者による同等の検定を経て免除することが出来る。この場合、10,000円の審査料となる。

（注5）山岳スキーガイドイング基礎に合格した者が受験できる。

（注6）山岳ガイド資格者は免除。

検定試験内容

検定科目	検定内容
筆記試験（一次試験）	登山技術一般、及び自然環境知識 地理、地形、気象に関する知識 危急時対応技術および応急処置 安全管理技術 職業倫理とマナー
実技適性試験	懸垂下降とロープワークの一部および体力調査
無積雪期 登攀ルートガイドイングおよび クライミング能力と技術指導	岩場でのルートガイドイング技術（ルートグレード4級） コンテニューアス技術 クライミング能力（5.10a） 指導内容
積雪期 登攀ルートガイドイングおよび アイスクライミング能力と技術指導	ミックス地帯でのルートガイドイング技術 コンテニューアス技術 ルートファインディング技術 支点構築技術 垂直部分5mを含む20mの氷壁をリードする能力 氷壁での支点構築技術 アイスクライミング指導能力
山岳スキーガイドイング 基礎 （選択科目）	山岳スキーガイドイング技術 山岳における登行・滑降技術
山岳スキーガイドイング 中級 （選択科目）	山岳スキーガイドイング技術 山岳スキーレスキュー技術
雪崩対策技術中級	雪崩予知技術 雪崩対策の器具使用技術 雪崩からのセルフレスキュー技術
レスキュー技術 中級	引き上げ技術10m以上 背負ってのカウンターラッペルによる降ろし技術 オーバーハングでの宙吊りからのレスキュー技術 自己脱出技術 背負っての搬送技術 応急処置

筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を行う場合がある
------	-------------------------

各科目の有効年数

各科目毎の合格有効年数は、合格証または免除認定書発行日から3年目の当該日までとする。

ガイド資格認定

全科目に合格した者へは、ガイド資格認定書を発行する。認定書受給者でガイド業務を行う者は、本会正会員団体に入会し、正会員団体より手続を行う。正会員団体より所定の入会金および年会費が納付された後、本会よりさらにガイド資格証（本会正会員証）およびガイドバッヂを付与する。すでに本会正会員である場合には、年度中では、資格間の会費（入会金および年会費）差額のみ徴収し、新資格のガイド資格証を付与する。

資格更新について

登攀ガイド資格には更新がない。この資格を得た者は、資格認定書発行日から3年以内に上級登攀ガイド資格を取得しなければならない。取得しない者は、本会の山岳ガイド資格を選択することも出来る。但し、平成16年3月末日時点での登攀ガイド資格者で、上級登攀ガイド資格を取得しない者は、3年間に4日間以上の資格更新研修を履修することにより更新される。また、満60歳を越える者は3年に2日間の机上研修を履修することにより更新される。

実技検定では受験者4名以内に対して1名の検定員を配置する。但し、山岳スキー、雪崩、レスキュー検定および適性試験は別に定める

上級登攀ガイド

職能範囲

日本国内で季節を問わず全ての山岳ガイド行為を行うことが出来る。
但し、山岳スキーおよびその分野に該当するもの（注）を選択しなかった者は、これを除く。
また、本会ガイド技術委員会に申請し、国際アスピラン・ガイドとして認定された者は、3年以上の実務経験を有する国際山岳ガイド（UIAGM）の管理・責任下において、同じ行程での国際山岳ガイド行為ができる。

（注）テレマークスキー、スノーボード等々によるガイドイングがこれにあたる。

受験資格

満20歳以上で上級登攀ガイド資格研修課程（登攀ガイド）を終了した者。または満23歳以上の山岳ガイド資格者で、且つ、山岳ガイドとして3年以上の実務経験を有し、上級登攀ガイド資格者が推薦する者。

受験申請書類（筆記試験申請時提出書類）

- 受験申請書 + 顔写真3枚（各科目毎の受験申込書とは別に必要）
- 登山歴報告書、ガイド歴報告書
- 上級登攀ガイド資格者の推薦状（山岳ガイド資格者で、3年以上の実務経験を有する者）
- 免除規定が適用できる場合に必要な証明
- 健康診断書（受験申込前3ヶ月以内に受診したもの）
- 検定試験受検誓約書

山岳遭難保険加入証書の写し

筆記試験料（一次試験）の内訳

・書類審査料（5,000円） 筆記試験料（15,000円）

実技検定試験（二次試験）

各実技科目毎の申請提出書類

受験申込書

最初の申請時提出書類から変更のあった内容についての再提出部分

検定試験科目および検定試験料

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
筆記試験（書類審査＋筆記試験）	日本国内	1日	¥20,000	（注1）
無積雪期 登攀ルートガイドングおよび クライミング能力と技術指導	日本国内	5日	¥60,000	
積雪期 登攀ルートガイドングおよび アイスクライミング能力と技術指導	日本国内	5日	¥60,000	
山岳スキーガイドング 上級	日本国内	7日	¥70,000	選択科目（注2）
雪崩対策技術 中級	日本国内	4日	¥45,000	免除規定（注3）
レスキュー技術 中級	日本国内	4日	¥45,000	免除規定（注4）
延べ日数（選択科目を除く）		19日+		

（注1） 筆記試験の実施は他のガイド種別と同時に行う。

（注2） 上級登攀ガイド資格研修課程修了者または山岳ガイド資格者で、山岳スキーガイドング基礎および中級に合格した者のみ選択することが出来る。

（注3） 別の職能でこの科目に合格した者は免除する。

（注4） 別の職能でこの科目に合格した者は免除する。

検定試験内容

検定科目	検定内容
筆記試験（一次試験）	登攀技術と自然環境一般知識 危急時対応技術 安全管理技術
無積雪期 登攀ルートガイドングおよび クライミング能力と技術指導	岩場でのルートガイドング技術（ルートグレード5級） コンテニューアス技術 クライミング能力（5.10c） 指導内容
積雪期 登攀ルートガイドングおよび アイスクライミング能力と技術指導	ミックス地帯でのルートガイドング技術（露岩等を含む） コンテニューアス技術 ルートファインディング技術 支点構築技術 垂直部分10mを含む20mの氷壁をリードする能力 氷壁での支点構築技術 アイスクライミング指導能力
山岳スキーガイドング 上級 （選択科目）	山岳スキーガイドング技術（露岩等を含むロングルート） 山岳スキーレスキュー技術 ホワイトアウトナビゲーション
雪崩対策技術 中級	雪崩予知技術 雪崩対策の器具使用技術 雪崩からのレスキュー技術

レスキュー技術 中級	引き上げ技術 10 m以上 背負ってのカウンターラッセルによる降ろし技術 オーバーハングでの宙吊りからのレスキュー技術 自己脱出技術 背負っての搬送技術 応急処置
筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を行う場合がある

各科目の有効年数

各科目毎の合格有効年数は、合格証または免除認定書発行日から3年目の当該日までとする。

ガイド資格認定

全科目に合格した者へは、ガイド資格認定書を発行する。認定書受給者には正会員団体より所定の入会金および年会費が納付された後、本会よりさらにガイド資格証（本会正会員証）およびガイドバッジを付与する。また、年度中では資格間の会費（入会金および年会費）差額のみ徴収し、新資格のガイド資格証を付与する。

資格更新について

資格更新は3年間に4日間以上の資格更新研修を履修することにより更新される。

満55歳を越える者は3年に2日間の机上研修を履修することにより更新される。

（更新のながれ） 資格更新研修申請書 + 研修費納入 更新研修 更新研修修了書

実技検定では受験者4名以内に対して1名の検定員を配置する。但し、山岳スキー、雪崩、レスキュー検定は別に定める。

国際山岳ガイド

職能範囲

国内はもとより国際山岳ガイド連盟（以下UIAGM）加盟国において、その加盟国の法律に反しない範囲で、全ての山岳ガイド行為を行うことができる。

受験資格

満23歳以上で上級登攀ガイド資格を有し、且つ上級登攀ガイドとして2年以上の実務経験を有する者。但し、上級登攀ガイドとして山岳スキーを選択しなかった者は除く。

受験申請書類（筆記試験申請時提出書類）

受験申請書 + 顔写真3枚（各科目毎の受験申込書とは別に必要）

登山歴報告書、ガイド歴報告書（正会員団体代表者の承認を得たもの）

免除規定を適用できる場合に必要な証明または推薦状

健康診断書（受験申込前3ヶ月以内に受診したもの）

検定試験受験誓約書

山岳遭難保険加入証書の写し

筆記試験料（一次試験）の内訳
書類審査料（5,000円） 筆記試験料（15,000円）

実技検定試験（二次試験）
各実技科目毎の提出書類
受験申込書
最初の申請時提出書類から変更のあった内容についての再提出部分

検定試験科目および検定試験料

検定項目	検定地	日数	検定試験料	備考
筆記試験（書類審査＋筆記試験）	日本国内	1日	¥20,000	（注1）
氷河を持つ山岳でのルートガイドニング	UIAGM加盟国	10日以上	実費	免除規定（注2）
氷河を持つ山岳での山岳スキーガイドニング	UIAGM加盟国	10日以上	実費	免除規定（注3）
雪崩対策技術 上級	日本国内	4日	¥45,000	
レスキュー技術 上級	日本国内	4日	¥45,000	
延べ日数		29日以上		

（注1） 筆記試験の実施は他のガイド種別と同時に行う。

（注2） 下記の者は免除する。

- ・受験申請日から起算して遡って2年以内に、氷河を有するUIAGM加盟諸国の山岳ガイドトレーニングコース（約2週間）を修了した者、または3年以上のUIAGMガイド資格を有する者を養成指導者として氷河を有する山岳において10日以上山岳ガイドトレーニングコースを修了し、その養成指導者が推薦する者。
いずれも検定免除の者に対する書類審査料は15,000円とする。

（注3） 下記の者は免除する。

- ・受験申請日から起算して遡って2年以内に、氷河を有するUIAGM加盟諸国の山岳スキーガイドトレーニングコース（約2週間）を修了した者、または3年以上のUIAGMガイド資格を有する者を養成指導者として氷河を有する山岳において10日以上山岳スキーガイドトレーニングコースを修了し、その養成指導者が推薦する者。
いずれも検定免除の者に対する書類審査料は15,000円とする。

検定試験内容

検定科目	検定内容
筆記試験（一次試験）	国際山岳に関する法規と一般知識 登攀技術と自然環境一般知識 海外における危急時対応技術 海外における安全管理技術 外国語（英語）および諸外国におけるマナー
氷河を持つ山岳でのルートガイドニング	氷河地帯でのルートガイドニング技術 コンテニューアス技術 ルートファインディング技術 支点構築技術
氷河を持つ山岳での山岳スキーガイドニング	氷河地帯での山岳スキーガイドニング技術 氷河技術と山岳スキーレスキュー技術
雪崩対策技術 上級	雪崩対策技術講習会の開催および指導法 雪崩事故に対するチームレスキューの構築と運営
レスキュー技術 上級	氷河地帯でのレスキュー技術 チームレスキューの構築と運営
筆記試験	実技検定試験に付帯する筆記試験を行う場合がある

各科目の合格有効年数

各科目毎の合格有効年数は、合格証または免除認定書発行日から3年目の当該日までとする。

ガイド資格認定

全科目に合格した者へは、ガイド資格認定書を発行する。認定書受給者には正会員団体より年会費の納付の確認の後、本会よりさらにガイド資格証(本会正会員証の国際に変更したもの)、国際山岳ガイド証、国際山岳ガイドバッジを付与する。尚、年会費は、年度中の場合、資格間の差額(入会金および年会費)のみ徴収する。

資格更新について

資格更新は3年間に4日間以上の資格更新研修を履修することにより更新される。

満55歳を越える者は3年に2日間の机上研修を履修することにより更新される。

(更新のながれ) 資格更新研修申請書 + 研修費納入 更新研修 更新研修修了書

実技検定では受験者4名以内に対して1名の検定員を配置する。但し、山岳スキー、雪崩、レスキュー検定は別に定める。

平成16年 5月19日 制定

平成16年 7月09日 改定